

だいじょうさい

## 大嘗祭と日本人—基層文化から日本を問い直す

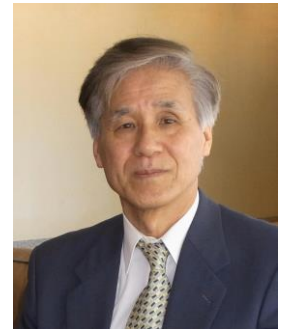
新天皇即位後に行う新嘗祭、「大嘗祭（だいじょうさい）」。新天皇即位の日程が2019年4月30日となり、5月1日には皇太子の即位が決まり、大嘗祭については同年11月に行う方向で調整に入っています。現天皇が即位した際にもこの大嘗祭は行われましたが、この儀式がどの様に執り行われているか、その詳細は秘すべきところが多く、ほとんど知られていません。

大嘗祭が古代天皇国家の祭祀として登場したのは、600年代末ごろです。その祭祀が、1300年以上もあとの、近代国家日本の21世紀にも挙行されます。600年代末ごろの古代天皇制は、武力王・行政王としての男性原理的側面と、神話王・呪術王・祭祀王といういわば文化王としての女性原理的側面との合体で成立しましたが、藤原氏の台頭やのちの武士政権の登場によって、天皇制は徐々に武力王・行政王の側面を失い、文化王として存続しました。

中国・雲南省などの現地調査に基づき、大嘗祭を天武朝から古墳時代、弥生・縄文時代にまで遡り研究を続けた工藤氏は、文化王として欠かすことのできない大嘗祭の源は、縄文時代以来の女性神聖視の基盤や、弥生時代の卑弥呼的女性シャーマンの伝統と、長江流域以南の稲作儀礼にあり、その基層には、土着の民俗文化と層を同じくするアニミズム系文化の残像があるとの結論に達しました。21世紀の現代まで続く儀式から、日本文化の源流を読み解きます。

### 講師 工藤 隆（大東文化大学名誉教授）

1942年栃木県生まれ。東京大学経済学部卒業、68年早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了、78年同博士課程単位取得退学。大東文化大学文学部日本文学科講師・助教授・教授を経て、現在同大名誉教授。専攻、日本古代文学。1995.4～1996.3中国雲南省雲南民族学院・雲南省民族研究所客員研究員。著書に、『日本芸能の始原的研究』（三一書房、1981年）、『大嘗祭の始原』（三一書房、1990年）、『古事記の生成』（笠間書院、1996年）、『四川省大凉山イ族創世神話調査記録』（大修館書店、2003年）、『雲南省ペー族歌垣と日本古代文学』（勉誠出版、2006年）、『古事記の起源』（中央公論新社、2006年）、『歌垣の世界』（勉誠出版、2015年。日本歌謡学会第33回志田延義賞受賞）、『大嘗祭』（中央公論新社、2017年）ほか。



### 開催概要

- 日時：2018年4月24日（火）19:00～20:30（18:30開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1,000円
- 申込方法：ホームページお申込フォーム、電話（03-3502-3340）、来館（1階受付）いずれかにて、  
①講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。

〈 お問い合わせ先 〉

日比谷図書文化館 広報担当：中澤 nakazawa-hiroyuki@shopro.co.jp / 並木 namiki-yuri@shopro.co.jp

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-4 TEL：03-3502-3342 / FAX：03-3502-3341

日比谷図書文化館ホームページ：https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/